

旅するODA

世界で出会う日本の技術

Journey with ODA



今村健志朗 / JICA

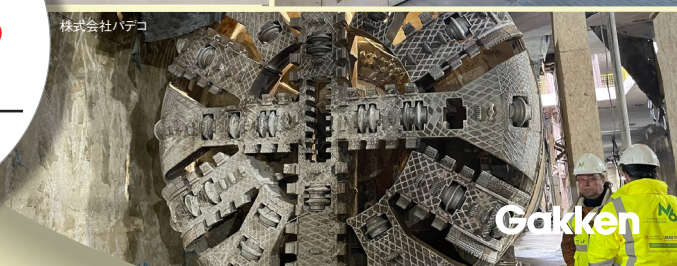
Feature!

旅をしながら触れる

ODAマンと巡る 国際協力の地

世界各地を巡り
海外支援に出会う

株式会社パテコ



Gakken



ODA WORLD MAP

世界のさまざまな場所に出会える ODAの足跡をたどる旅へ

これまでに世界190ヵ国・地域で、ODA(政府開発援助)を実施してきた日本。日本が世界とどうつながり、日本の技術でどのように支えているのか。そして、国際社会にどのように貢献しているのか。本冊子では5つの国の特徴や魅力とともに、「ODA」プロジェクトを紹介していく。



ベトナム社会主義共和国

ベトナムってどんなところ?
南北に長く、南部、中部、北部で、異なる景色、食、文化を楽しめる共和国。何度訪れても新しい発見ができる。手頃なベトナム雑貨やスパなども人気。



ベトナムでの「ODA」

インフラ整備や文化遺産保全を幅広く支援。空港の改修、鉄道や橋の建設、建築物の保存修復など、複数のプロジェクトが各地で実施されている。



久野真一/JICA



詳しくは P.4-5へ



ルーマニア

ルーマニアってどんなところ?
歴史的な遺産と豊かな自然が魅力の共和国。吸血鬼ドラキュラ伝説の舞台とされるブラン城は、ルーマニア観光の目玉的な存在だ。

ルーマニアでの「ODA」

ルーマニアの空の玄関口であるアンリ・コアンダ空港と首都ブカレスト中心部を結ぶ地下鉄の建設を支援。



詳しくは P.9へ



世界のあちこちで根付く日本の技術協力

ODAの成功にはJICAや民間企業との連携が不可欠

日本の国際協力の歴史は72年!



ペルー共和国

ペルーってどんなところ?
13の世界遺産をはじめ、歴史的価値の高いスポットが点在する人気観光地。世界的に評価の高いペルー料理も大きな魅力。

ペルーでの「ODA」

3D測量技術を用いてマチュピチュ遺跡の調査を実施。経年劣化、自然災害や人為的被害による損傷からの復旧、効果的な保全に向けた取り組みを行う。



詳しくは P.8へ



ラオス人民民主共和国

ラオスってどんなところ?
タイ、ベトナム、カンボジア、ミャンマー、中国の5ヵ国に囲まれた内陸国。国土の8割が山岳地で、手つかずの大自然が広がる。

ラオスでの「ODA」

空港や橋などのインフラの整備、持続可能な都市開発への協力など、多くのODAにより、ラオスの経済発展を後押ししている。



バクセー橋



詳しくは P.4-5へ



エジプト・アラブ共和国

エジプトってどんなところ?
紀元前3000年頃からの長い歴史を持つ共和国。南北を貫く大河・ナイル川沿いにピラミッドなどの古代遺跡や観光スポットが点在する。

エジプトでの「ODA」



単一文明を扱う博物館としては世界最大級の「大エジプト博物館」の設立を支援。遺物の保存修復をはじめ、移送のための梱包などさまざまな技術提供をしている。

詳しくは P.6へ

ODA mini column 大使館での経済・開発協力班の仕事とは?

経済・開発協力班は、開発途上国に所在する日本大使館や総領事館に設置されており、開発途上国の発展を支援するODA案件の形成・選定・実施などの業務を行っている。



Start!

活気あふれる旧市街をそぞろ歩けば、ベトナムの日常を体感できる

Day 1-3

ベトナム ハノイ

首都ハノイの街歩きと湖畔の散策

旅のスタートは、1000年以上の歴史を持つベトナムの首都から！レトロな風情の旧市街、緑豊かなホアンキエム湖など、足の向くまま街歩きを楽しもう。

ODAプロジェクト

ノイバイ空港改修 / ニャットン橋建設

ハノイの玄関口「ノイバイ空港国際線新ターミナル」と「ニャットン橋」、その経路上にある「空港と橋を結ぶ高速道路」の建設を日本企業の技術で支援。



建設工事はIHインフラシステム・三井住友建設の共同企業が担当



2015年に開通したニャットン橋工事の様子

ニャットン橋の別名は「日越友好橋」!



ODAプロジェクト

ホイアン旧市街町並み保存

1990年代からホイアン市旧市街町並み保存にかかわる支援を継続。建造物や文化財の修復のほか、下水道整備やゴミ減量などの取り組みにも協力している。



ホイアン日本橋の修復作業



16~17世紀に交易で栄えたノスタルジックな古都「ホイアン」

Day 4-5

ベトナム ホイアン

ランタンの灯る古都を歩く

ベトナム中部にある世界遺産の古都、ホイアン。歴史を感じさせる建築物、ランタンの明かりが幻想的なナイトマーケット、トゥボン川の灯籠流しなど、バラエティに富んだ見どころが揃っている。

ホイアンのランタン祭り



SNS映えバツグン！ まるっとピンク色の「タンディン教会」

Day 6-7

ベトナム ホーチミン

エネルギッシュな都会を愉しむ

通りを埋めるバイクの群れと高層ビルが象徴的なベトナム最大の都市。フランス統治時代の美しい建物群が残り、伝統と現代が交差する独特の雰囲気を感じさせている。

ODAプロジェクト

ホーチミン市都市鉄道建設

ベトナム初の地下鉄の建設を支援。ハード、ソフトの両方に日本のノウハウが生かされている。



開業は2024年12月。今ではすっかり市民生活に定着！



地下鉄のおかげで交通渋滞も緩和されつつあるよ

Day 10

ラオス ビエンチャン

旅の疲れを癒やす首都

首都でありながら、のんびりとした雰囲気が漂う町。メコン川の美しい自然に包まれて、喧騒から離れた癒やしのひとときを過ごす。

ラオスのシンボル、黄金の仏塔「タートルアン」



ODAプロジェクト

ビエンチャン国際空港拡張・整備

ラオスの経済活動の拠点であるビエンチャン国際空港の施設拡張、整備を支援。運営にも日本企業が協力している。



補修工事等を行い、効率性および安全性の向上を目指す

ODAプロジェクト

パクセー橋建設



ラオス南部の都市、パクセーの市街地とタイ国境方面の対岸を結ぶ橋の建設を支援。現地呼称は「Lao-Nippon Bridge(ラオス日本大橋)」

Day 8-9

ラオス パクセー

橋を渡り「ワット・プー」へ

ベトナムを満喫したあとは、国境を越えてラオス南部のパクセーへ。世界遺産のヒンドゥー教寺院遺跡群「ワット・プー」は必見！



パクセーのシンボル「ワット・プーサラオ」

ワット・プー

1万キープ札(約73円)は、パクセー橋が描かれている



ODAプロジェクト

持続可能な都市開発・交通管理プロジェクト

観光客増加による排水やゴミなどの環境問題、交通渋滞といった地元で対応しきれなくなったさまざまな課題への解決をサポート。

道路局トップとの交通協議会



Goal!

Day 11-12

ラオス ルアンパバーン

歴史香る、世界遺産の古都へ

深い山々に囲まれた仏都。伝統的なラオス建築とフランス統治地時代の建物が融合した、美しく調和のとれた景観が特徴。古都全体が世界遺産に登録されている。



メコン川に寄り添うように広がるルアンパバーンの町

MODEL COURSE

世界遺産と経済都市を結ぶ ODAに触れる

ベトナム & ラオス 周遊モデルコース

世界遺産の宝庫、ベトナム、ラオスは、日本のODAの主要支援先。これらを旅すれば、日本の支援が人々の生活や景色をどのように変えたかを肌で感じられるはず！



ギザのピラミッド近くに位置する大エジプト博物館。ピラミッドと呼応する外観デザインが特徴的 GEM/JICA



ツタンカーメンの儀礼用ベッドについて議論する日本人、エジプト人専門家

ODA PROJECTS

エジプト ペルー ルーマニア

世界で進むプロジェクトの軌跡

歴史的遺産の保存、観光インフラの整備、都市開発など、さまざまな目的のもと、世界でODAプロジェクトが進行中。“よりよい未来へ”の思いを紡いだ、日本の国際協力活動を3つ紹介しよう。



大エジプト博物館合同保存修復プロジェクト

圧巻の「ツタンカーメン・ギャラリー」を実現させた遺物の保存修復への協力

歴史と神秘の国、エジプトに誕生した新たな必見スポット「大エジプト博物館」。設立にあたって日本が果たした貢献とは？

ツタンカーメン・ギャラリーの展示物はすべて本物！



悠久の歴史が息づく 巨大博物館の設立を支援

2025年11月、単一文明を扱う博物館としては世界最大級の「大エジプト博物館」がグランドオープン。収蔵されている遺物は10万点以上。最先端の保存技術や広大な展示空間を備

え、古代エジプトの約5000年にわたる歴史を体感できる施設として世界中から熱い視線が注がれている。なかでも最大の見どころといえば、ツタンカー



ツタンカーメンの遺物「サンダル」の保存修復作業

メン王の秘宝を間近で鑑賞できる「ツタンカーメン・ギャラリー」。黄金のマスクや儀式用の寝台など、王墓から発見された5000点を超える遺物が、史上初めてひとつの空間に集められて展示されているのだ。そして、そんな唯一無二のコレクションを誇る同博物館設立の陰には、長年にわたる日本の惜しみない協力があつた。

エジプトと共同で 本物の遺物の修復作業を実施

日本の大エジプト博物館への支援活動は、資金協力、収藏品、展示品の保存・修復や博物館運営に関する技術協力など多岐にわたり、JICA（国際協力機構）や多くの民間企業がさまざまなプロジェクトに携わってきた。その中心的な取り組みが、「大エジプト博物館合同保存修復プロジェクト」である。2008年のスタート当初は、大エジプト博物館に併設する保存修復センターで働く人材育成をサポートする取り組みだ。JICAの専門家チームがエジプトに赴き、遺物のレプリカ（複製品）を使って修復方法や遺物の劣化を防ぐノウハウを教える活動が行われた。その後、2016年からは本物の遺物の保存修復を共同で実施。日本人専門家約120人が、ツタンカーメン王墓から発見された副葬品や古王国時代の貴重な壁画などの保存・修復に協力した。

幅広い分野の専門家が集結！ 歴史的な大発見も

貴重な文化財の修復作業を任せられることになったのは、それまでの活動を通じて2国間に



輸送前に和紙を使って補強されるツタンカーメンの天蓋

強い信頼関係が築かれていたから。プロジェクトには、考古学や保存科学、修復技術、文化財移送など、幅広い分野の専門家を集めたオールジャパンで参加。木製品や染織品、壁画など日本の素材で培った修復技術をフル稼働させて作業に取り組んだ。例えば、遺物の補強や保護には和紙が活躍。また、「ツタンカーメン王の戦車には天蓋が付いていた！」という歴史的な大発見も、日本のノウハウがあったからこそ成し得たことといえる。

大エジプト博物館は、日本とエジプトの友好関係の象徴。入口付近には日本とエジプトの国旗が共に掲げられ、展示品に日本語の解説が付けられるなど、いたるところに日本への感謝、友好が示されている。同博物館がエジプトと世界の橋渡しとなり、エジプトの社会経済の発展につながるよう、日本は今後も協力を継続していく。

あのツタンカーメン王の秘宝の修復に携わったなんて！



プロジェクト概要

日本・エジプト両国の専門家が集結してワンチームを結成。ツタンカーメン王の遺物72点の保存修復や移送作業などに取り組んだ。



高精度デジタルマイクロスコープ（JICA供与機材）による布繊維の調査



合同保存修復プロジェクトのメンバーたち



ペルー国 マチュピチュにおける古代遺跡の保全・活用のための高精度3D測量解析調査(3D-SACURA)

最新の3D測量技術を駆使してマチュピチュ遺跡の保全と遺構の把握を支援

一度は訪れてみたい場所、世界遺産「マチュピチュ」。壮大な天空の遺跡を今の姿のまま遺すために活躍する、日本の測量技術を見ていこう。

3Dデータの活用で経年変化の把握もバッチリ



調査チームを結成し現地へ



ドローンを使えば人が立ち入れない場所でも高精度の計測が可能

アンデス山脈、標高約2430mの尾根にたたずむマチュピチュ。美しい景観は数百年を経た今も健在ながら、近年は保全問題に直面している

崩壊を防ぐための保全活動に協力

マチュピチュは、15世紀のインカ帝国によって築かれた天空の遺跡。精巧な石造りの建物と段々畑が調和する「天空の都市」であり、世界遺産にも登録されている。緑深い山々を背景に、隙間なく組み合わせられた石造りの建物が連なる姿は、息をのむような美しさだ。しかし、その一方で自然災害などによる風化・劣化が年々進行。さらにはオーバーツーリズムの影響も加わり、将来的な崩壊リスクが懸念されはじめたことから、日本は遺跡保全活動の支援に乗り出した。

3D測量技術が保全対策に大活躍

2019年よりJICA民間連携事業(基礎調査)を実施し、2025年から本調査を開始。ドローンやレーザースカナを用いた高精度な3D測量技術を用いて遺跡の形状を計測し、自然災害や人為的被害による損傷からの復旧・補修、効果的な保全対策や遺構の把握に役立てることを目指している。例えば、地震や土砂崩れのリスクがある場所の構造をデジタル化し、保全

プロジェクト概要

JICAは測量や用地調査に実績を持つ株式会社ふたば(福島県)の協力のもと、3D測量技術を用いてマチュピチュ遺跡の測量、データ解析を実施。重い機材を背負って川を渡ったり、インカ道を2時間歩いたり、調査には、タフさが求められる局面も。適切な保全や修復等への活用方法をペルー政府に提案している。

株式会社ふたばの調査チーム



対策を提案。また、遺跡周辺の森林地帯の新たな遺跡を探す取り組みもなされ、実際に遺構形状の特定に成功している。

文化遺産を守る。それは、ただ現状を維持することではなく、次世代への伝承を含めた「未来への取り組み」。100年後、200年後もマチュピチュが人々を魅了することを願って、日本は支援を続けている。



ブカレスト国際空港アクセス鉄道建設計画

ブカレスト市民の生活利便性を高める地下鉄の新線建設を主導

ルーマニアの首都、「東欧の小パリ」とも呼ばれるブカレストでの新たな地下鉄の建設。このプロジェクトは、日本の積極的な協力によって、目下急ピッチで進んでいる。

国際空港と首都を結ぶ地下鉄建設を支援

ルーマニアでは、2007年のEU加盟以後、ブカレスト国際空港(アンリ・コアンダ空港)の利用乗客数が急増。大量輸送が可能な公共交通機関の整備が不可欠となったことから計画されたのが、国際空港と市中心部を結ぶ地下鉄6号線の建設だ。日本は2010年に同プロジェクトへの支援を決定。ルーマニア側の事情から一時は中止の危機もあったが、2023年12月、晴れて本格的な着工となった。2025年4月9日には、トンネル掘削機の発進式が行われ、日本への感謝を込めて名付けられた「TOKYO駅」予定地の地下からトンネル掘削機がスタート。式典では、日本の支援に対してルーマニア首脳より深い謝意が述べられた。

土木工事、人材育成などのサポートも

地下鉄6号線の完成は2028年の予定。日本は建設費用の援助だけでなく、土木工事や施工管理、人材育成などにも協力する。地下鉄開通後は、空港から市内までの主要な移動手段がバス、タクシー、自家用車となっている現状が改善され、アクセスは大きく向上。また、地下鉄利用者が増えれば必然的に自動車の数も減り、交通渋滞や排気ガス問題の緩和につながる。生活環境の改善、地域経済の発展という面でも期待がふくらむプロジェクトであり、ブカレスト市民は完成を心待ちにしている。

日本はこれまでもルーマニアに対して多数のODAプロジェクトを実施し、近年の経済成長を後押ししてきた。そのため、ルーマニアの人々は日本に対してとても好意的。ODAが信頼の絆を深め、友好の架け橋となっている。



地下鉄6号線路線図。全長約14.2~15km、12駅(または16駅)の計画 ©METROREX S.A. www.magistrala6.ro



トンネル掘削機ANA

ルーマニアにも「TOKYO駅」が!



プロジェクト概要

土木工事や車両基地工事、設計など、幅広い事業を支援。国際開発コンサルティングのエキスパート、株式会社パデコが中核となって、建設管理・設計確認・入札支援を行いプロジェクトを動かしている。

発進式のハイライト! 関係者が手を携えてトンネル掘削機の発進ボタンをプッシュ





シャルムエルシェイク



教育大臣との面会

在エジプト大使館

川島 志月 二等書記官



エジプトの教育の質向上に向けた業務を担当。エジプト政府や教育省の要人と面会し、直接意見交換をする機会も多いです。エジプト側から、日本の教育行政の専門家として期待を寄せてもらうことがうれしく、日々の業務への励みになっています。



24時間とある1日のスケジュール

8:00	午前	昼	午後	17:15	18:00	20:00
出勤	現地報道の確認 メールチェック	同僚とランチ	打ち合せ 議事録作成 との打ち合せ	退勤	邦人有志で バスケットボール	アラビア語学校



MEET OUR PEOPLE 世界各地でプロジェクトに携わる 大使館員の活動に迫る!

赴任国にてODAにおけるフロントランナーの役目を果たす大使館員たち。言葉、文化、風習、ビジネス感覚など、日本とは何かと勝手が違うことも多い世界各地の現場でプロジェクトを支える、彼らのリアルボイスを紹介しよう。



在ペルー大使館

白谷 将基 二等書記官



国際機関(UNICEF)との会議



ペルー政府やJICA、国際機関と連携しながら、ODAを進めています。ODA案件を積み重ねてきたことで、日本に対して親しみを感じてくださる方が多く、プロジェクト完了後の式典の際に、現地の方から日本語で「ありがとう」と声をかけられたことは忘れられない思い出です。



8:30	午前	昼	午後	夜	21:00
出勤	打ち合わせ 国際機関との	同僚とランチ	来訪者対応	ペルー政府主催のイベントへ出席	退勤



ウクライナ支援案件の視察



在ルーマニア大使館

工藤 博 一等書記官



各所関係者との打ち合わせ、現場視察などを通じてニーズや課題を把握し、よりよいODA執行のために外務省との連携をはかっています。ルーマニア人は、前もって準備をせず、直前になって「爆発的な推進力」を発揮するタイプが多く、いつもハラハラ。その一方で、最終的に必ず形になるので、感服するところでもあります。

24時間とある1日のスケジュール

8:30	午前	昼	午後	夜	21:00
出勤	会議への出席	ルーマニア政府への働きかけ	関係者とランチ	来訪者対応 現地視察 報告書作り	公邸会食への出席



在ベトナム大使館

加地 淳志 一等書記官



ダンナンビーチ



会合でチン首相と握手



24時間とある1日のスケジュール

8:00	午前	昼	午後	夜	21:30
出勤	本邦企業と面会	本邦企業と電話	ランチ	本邦企業と電話 資料・議事録作成 国交本省と電話	ベトナム政府関係者と会食 退勤



ライスクラッカー



チャオ・アヌウォン・スタジアム起工式

在ラオス大使館

吉橋 明日香 二等書記官



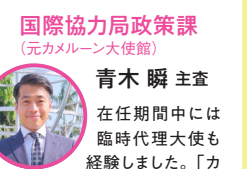
外交官の仕事は「ダーツの旅」に似ていると思います。矢が当たった国・地域へ赴任し、現地の人々と交流しながら、その土地の魅力を見つけていく……そして私の矢はラオスに命中。こちらでは広報や文化業務、文化無償・草の根文化無償資金協力を担当。現地の人々の声を直接聞く機会が多く、やりがいを感じます。

24時間とある1日のスケジュール

8:30	午前	昼	午後	夜	21:00
出勤	本邦企業と面会	打ち合わせ 館内会議	ラオス人元日本留学生とランチ JICAラオスと打ち合わせ	報告書作成 現場視察	大使公邸行事 退勤

ODAプロジェクトに携わる 国際協力スタッフの日常

さまざまな部門の仕事がつながってこそODAは成り立つ。現地で奮闘した国際協力スタッフたちの声も聞いてみよう。



青木 瞬 主査

在任期間中には臨時代理大使も経験しました。「カメルーン人が愛するものを愛し、カメルーン人が愛することを一緒に実践する」をモットーに、全力で仕事に取り組みました。



現地産のビール各種



カスピ海



国際協力局政策課 (元アゼルバイジャン大使館)

小網 梨夢 外務事務官

アゼルバイジャン人はあまり英語を話さないもので、少しでも円滑にコミュニケーションが進むよう、現地の文化を学んで会話に入れるなどして相手の心を開くよう工夫していました。

国際協力局 開発協力連携室 (元キルギス大使館)

清水 美徳 外務事務官

キルギス政府は日本大使館に対してとても協力的で、困りごとにも真摯に対応してくれました。大使館主催のイベントで、振袖を着て茶道のお点前を披露したこともよき思い出です。

羊の大群に会えるジャララバード州



あなたの関心度で出発！ ODAを知る旅へ



ODAの情報入手先をピックアップ。
全てチェックすればあなたもODAマスターに?!

気軽にチェックしたい方は

SNSでのぞく ODAの取り組み



外務省/ODA 広報
Xアカウント

ODA情報を楽しく発信するODA広報のX。時々、ぬいぐるみ姿のODAマンが発信することもある。

投稿はこちら▼



外務省/ODA 広報
Instagram アカウント

ODAの現地から発信されている公式Instagram。旅行気分でのDAの情報を知ることができる。

投稿はこちら▼



もう少し知りたい方は

ドキュメンタリーで知る ODAの現場

10分ドキュメンタリー三作
「知られざる国際協力の真実」



ナビゲーターとして永島優美さんを迎え、国際協力のメリットやオファー型協力についてわかりやすく紹介。

動画はこちら▼



日本全国各地発！
中小企業のODA



ODAに参画する中小企業のインタビュー取材記事を公開。ODAへの思いや、やりがいなどに迫る。

記事はこちら▼



しっかりと深掘りしたい方は

動画・ドラマでたどる ODAプロジェクト

鷹の爪団の行け！ ODA マン



「秘密結社 鷹の爪」の主人公・吉田くんを「ODAマン」に任命して展開するODA紹介動画。

動画はこちら▼



開発協力ドラマ
「ファーストステップ」シリーズ



外務省国際協力局など、ODAの現場を舞台に活躍する、人々を描いたヒューマンドラマ。

動画はこちら▼



「ODA」に関する様々なコンテンツ・情報が集まる

サイトはこちら▼



外務省 ODA 公式サイト

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/index.html>

